

坂口っ子の「国語」・「算数」の力と学習の様子

～『令和6年全国学力・学習状況調査(2024.4.18 6年生が実施)』の結果から～

★今年度は、国語・算数の調査が行われました。どの教科にも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。(◎は良いところ、▲は伸ばしたいところ)

★国語について

①『学習指導要領の6つの内容における結果から』

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の6つの内容のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の2つの内容で力がついています。

②『特に正答率の高かった問題』

◎特に「情報の扱い方に関する事項」の内容において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができています。これは、日々の授業において、自分の考えや情報などを相手に分かりやすく伝えることを意識して取り組んでいる成果が表れています。

③『課題として』

▲「読むこと」の内容に課題があります。文章から登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えたり、人物像を具体的に想像したりする設問で誤答が見られました。登場人物の行動や会話などについて、暗示的な表現の仕方にも注意して登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子や登場人物の心情の関係に着目したりするなどの学習活動を充実させる必要があります。

これからは 語句の意味の理解が不十分なことから、文章の内容等を読み取ることができないこともあるので、各単元で分からない言葉の意味を辞書等で調べるなどを継続して行い、語彙力の向上を図っていきます。また、文章の中で大事なキーワードを確認したり、要約する活動を取り入れたりしながら、内容を読み取る力をつけていきます。さらに、タブレットの利用など、様々なツールを活用し、友達と意見を共有することで、自己の考えをより深め、主体的・対話的で深い学びにつなげます。授業だけではなく、朝読書・読み聞かせ・家庭読書等の読書活動を推進し、感想を書いたり伝え合ったりすることで言語活動の充実を図ります。

★算数について

①『学習指導要領の4領域における結果から』

◎4領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のうち、領域「変化と関係」が他の領域に比べ良好で、特に「知識・技能」に分類される問題は正答率が高いと言えます。

②『特に正答率の高かった問題』

◎領域「図形」において、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかを判断する問題がよくできています。

◎領域「数と計算」において、除数が小数である場合の除法の計算問題がよくできています。

③『課題として』

▲領域「数と計算」において、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて説明することに課題があります。

▲領域「変化と関係」において、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することに課題があります。

これからは 基礎・基本をていねいに学習しながら、問題解決の場面において、身に付けた知識・技能を活用し、お互いの考えを説明し合うなどの言語活動を取り入れた授業を進めていきます。また、言葉や式、図、表、グラフなどを適切に用いて自分の考えを表現し伝え合う際に、ipadを活用して「見える化」を行うことで、主体的で対話的な学びが深まるような学習を継続していくとともに、学習の個性化や指導の個別化を図っていきます。

★学習や生活について

《家庭や地域に関すること》

◎「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答しています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答しています。このことから、地域の方々との関わりの中で、ふるさとに対する愛情を育むことができている、社会に貢献したいという思いをもっていることがわかります。

《自分自身に関すること》

◎「毎日朝食を食べているか」「同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしているか」という問いに対し、全員が「している・どちらかといえばしている」と回答しています。このことから、基本的な生活習慣が身に付いているといえます。

◎「先生は、自分のよいところを認めてくれているか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答しています。このことから、本校の児童は、自己肯定感が高いことが伺えます。

▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という問いに対し、「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童がみられました。今後も、担任はもちろん、副担任や養護教諭、スクールカウンセラーなど児童が相談しやすいと思った先生にいつでも相談できるような体制を整えます。また、心のアンケートや教育相談活動を定期的に行うとともに、「SOS の出し方に関する教育」をさらに推進して、困ったことや不安がある時に気軽に相談ができるように努めていきます。

《学校や学習に関すること》

◎「分からないことがあった時に、ICT 機器を活用してすぐ調べることができる」「ICT 機器を活用して楽しみながら学習を進めることができる」という問いに対して、全員が「とてもそう思う・そう思う」と回答しています。このことから、ICT 機器を日常的に活用して学習に意欲的に取り組んでいるといえます。